

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月17日現在

機関番号：27103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04311

研究課題名(和文) ホームレス状態にある若年女性の生活・就労・社会的自立支援のためのシステム構築研究

研究課題名(英文) A system construction study to support the lives, employment, and social independence of homeless young women

研究代表者

野依 智子 (Noyori, Tomoko)

福岡女子大学・国際文理学部・教授

研究者番号：40467882

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ホームレス状態にある若年女性に着目し、彼女たちの生活支援・就労支援さらには社会的自立支援のためのシステム構築を目的とした。若年女性がホームレス状態に至ったプロセスとその実態、さらに貧困の実態を明らかにするため、以下の調査を行った。

「ガールズ編仕事準備講座」(フォーラム南太田)での参与観察。働きづらさ・生きづらさを抱え、自己肯定感を喪失した若年女性の実態を把握した。次いで、「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査」では、貧困と孤立の実態を把握した。

支援システム考察には、就労体験の場「めぐカフェ」や働く意欲醸成にもつながっている「ファイバーリサイクル事業」を調査した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2008年のリーマン・ショック以後、若年の生活困窮者が増加した。本研究は、とりわけ若年女性に着目して、ホームレス状態(関係性の喪失)にある彼女たちの就労支援・生活支援・社会的自立支援のためのシステムを構築すべく調査を行った。調査と結果は以下の通りである。

「しごと準備講座ガールズ編」での講座参加と就労体験としての「めぐカフェ」参与観察の結果は、重層的困難を抱え、一旦は就労するものの継続するものは40%であった。非正規職シングル女性のアンケート調査からは、貧困と孤立の中にあることがわかった。二つの調査から、彼女たちは悩みを共有し、共感し合えるネットワークを求めていることがわかった。

研究成果の概要(英文)：The objective of this study is to focus on homeless young women and construct a system to support their lives, employment, and social independence. The following surveys were conducted to clarify the process that led to the young women becoming homeless, their actual conditions, and the realities of poverty. Participants in a “job preparation course for girls” (Forum Minamiota) were observed to understand the reality of young women who struggle to work and live and who have lost their self-esteem. Next, a “survey of social support needs of single women in non-regular employment,” were conducted to understand the reality of poverty and isolation.

To study support systems, a survey was conducted of the “Meg Caf” work experience site and the “Fiber Recycling Project” that also leads to increased work motivation.

研究分野：社会教育

キーワード：就労支援 システム 生活支援 社会的自立支援 女性の貧困 非正規雇用 シングル女性 男性稼ぎ主 支援シ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

これまでホームレス状態にある女性は可視化されにくかった。2003(平成15)年の「第一回ホームレスの実態に関する全国調査」では、25,296名中女性ホームレスは749名、約3.0%であった。

従来のホームレスとは50~60代・男性・日雇い労働者・未婚が典型であったが、2008年のリーマンショック以来、20~30代の若年男性・未婚が増えてきた。申請者はこれまで、労働と家族の関連の視点から50~60代のホームレス177名、20~30代のホームレス29名にインタビューを行い、ホームレス問題とは「男性稼ぎ主」になれなかった男性労働者の問題であることを明らかにしてきた。

ではなぜ、女性ホームレスは少ないのか。理由のひとつには、女性を対象としたセーフティネットとしての女性保護施設が複数あることが挙げられる。婦人相談所・婦人保護施設・母子生活支援施設など女性や母子に限定して保護するものとして戦前・戦後から時代状況に応じて設置されてきた施設が数種類ある。こうした女性保護施設がセーフティネットとしての役割を果たし、女性が路上に排出されることを防いできたといえる。もうひとつには、女性保護施設の入所理由である。内閣府男女共同参画局の平成24年度の調査によると婦人相談所の入所理由は「夫等の暴力」が70.7%、婦人保護施設は43.4%、母子生活支援施設は55.0%といずれも「夫等の暴力」が入所理由の1位を示している。また、川原恵子(「福祉施設利用に見る女性の貧困」『貧困研究』Vol.6)の調査では、女性保護施設に入所した女性の8割以上に結婚歴があった。このことは女性の場合、家族という「居場所」を維持できなくなった時に「居所不安定」になることを示唆している。つまり女性は、家族に包摂されることで路上に排出されるリスクを下げているともいえるのだが、逆に夫や家族からの暴力があっても耐えなければ「居場所」を失うことを意味する。以上のように、女性ホームレスが少ない理由は、女性を対象にした複数の保護施設がセーフティネットとなっている。女性は、抑圧的関係にあっても家族(夫)に包摂されることで路上に排出されることを防いでいることがあげられよう。

しかしながら近年、ホームレス状態の女性とりわけ若年女性が増加している。「広義のホームレスの可視化と支援策に関する調査」(NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク、2011年)では、ホームレス状態にある女性は8.7%と報告されている。また、こうしたホームレス状態にある女性の若年化も指摘されている。2014年4月27日に放映されたNHKスペシャル「女性たちの貧困 - 新たな連鎖の衝撃」では、ネットカフェに滞在しながらアルバイトで生計を維持する19歳と14歳の姉妹などが紹介された。

このようにホームレス状態にある女性の可視化、とりわけ若年女性の貧困化とホームレス状態の可視化が進んでいる。

こうした若年女性の貧困化の背景には、男性とりわけ若年男性の非正規化がある。2000年代に入り、安定した仕事に就けない若者が急増し、若者の非正規問題が顕著になった。総務省の「労働力調査」によると、15歳から24歳までの非正規率は、1989(平成元)年には男性20.4%、女性20.6%だったのが、2011(平成23)年には男性45.6%、女性56.6%と急増している。この若者の非正規問題は、2004(平成16)年施行の改正派遣労働法により「物の製造の業務」にも派遣労働が適用されるようになったことが背景にある。近年、男性とりわけ若年男性の非正規化が進んだことから社会問題として注目されたが、若年女性の非正規化も急増しているにも関わらず見えにくかった。なぜならば、そもそも女性の非正規労働は、主婦のパート労働など従来から非正規問題として存在しているためである。

しかしながら、2000年代に入ってから若年女性の非正規問題は、社会構造のあり方として新たな局面を迎えたといえる。つまり、若年女性の非正規化が急増したということは、日本の企業社会を支えてきた「男性稼ぎ主」モデルが実質的に崩壊したことを意味する。従来の主婦のパート労働に象徴される女性の非正規問題は、「家族賃金」という賃金体系における夫の被扶養家族という範囲内での非正規問題であった。ところが、近年の若年男性の非正規化は、「男性稼ぎ主」になれない男性つまり「結婚できない男性」の増加を意味し、連動して男性の被扶養家族になれない若年女性の増加を意味する。男性の被扶養家族になれない女性は、単身で非正規雇用として生活を維持しなければならず、若年女性の非正規化は新たな女性の非正規問題として位置づくとも考える。

### 2. 研究の目的

本研究は、ホームレス状態にある若年女性の生活支援・就労支援・社会的自立を支援するためのシステムを構築することを目的とする。

近年、ネットカフェなどに宿泊する若年女性の貧困・ホームレス状態が可視化されてきた。申請者はこれまで、労働と家族の関連の視点から50~60代のホームレス177名、20~30代のホームレス29名にインタビューを行い、ホームレス問題とは「男性稼ぎ主」になれなかった男性労働者の問題であることを明らかにしてきた。本研究は、「男性稼ぎ主」モデルの崩壊がホームレス問題の本質であることを踏まえ、ホームレス状態にある若年女性のプロセスを明らかにした上で、生活支援・就労支援さらに社会的自立支援のためのシステムを構築・提示することを目的とする。

なお、ここでいうホームレス状態とは「不安定居住」状態(青木秀男編著『ホームレス・ス

タディー』ミネルヴァ書房より)をいい、若年とは18歳から39歳までをさす。また、社会的自立とは、社会参加・参画を可能にし、社会の一員として自立することをいう。さらに、ここでいう女性保護施設とは、婦人相談所・母子生活支援施設などの女性対象の施設に加え、救護施設・更生施設・宿泊提供施設など女性対象ではないが女性の入所者もいる施設をさす。

### 3. 研究の方法

ホームレス状態にある若年女性の生活支援と就労支援、さらには社会的自立を支援するためのシステムを構築・提示するために次の3つの調査研究を行う。

- (1) 若年女性がホームレス状態に至ったプロセスをインタビュー調査によって明らかにする。
- (2) 女性保護施設の担当者へのインタビュー調査と参与観察を通して、入所者の生活実態ならびに女性保護施設の支援体制・支援内容の課題と可能性を明らかにする。
- (3) 生活保護行政や支援団体へのインタビュー調査を通して、支援のしくみ・連携に関する課題と可能性を明らかにする。

具体的には、以下の通りである。

横浜市：男女共同参画センター横浜（フォーラム横浜）（5名）：講座受講者への参与観察

男女共同参画センター横浜では、働きづらさ、生きづらさを抱える独身女性に着目し、平成21年度から若年無業女性を対象に「ガールズ編しごと準備講座」を行っている（全11日間、定員20名）。また、講座修了生が就労体験をするための「めぐカフェ」も運営している（専任スタッフ1名に修了生1名、6ヶ月体験）。この講座とカフェの参加者へのインタビュー（5名）と参与観察を通して、若年女性の貧困と困難の実態を明らかにする。

女性保護施設へのインタビュー調査と参与観察を通して、当事者の生活実態と支援の方法・内容を把握し、女性保護施設の課題と可能性を明らかにする。調査対象は、次の通りである。

大阪市：（社福）みおつくし福祉会

みおつくし福祉会は、救護施設・更生施設（2か所）・母子生活支援施設（3か所）・ホームレス自立支援センター（2か所）等を運営しており、いずれも女性の緊急一時保護施設（シェルター）としても利用されているため、ホームレス状態の女性・若年女性への支援につながりやすい。したがって複合的な視点で女性保護施設の課題と可能性を明らかにできる。

福岡市：抱樸館福岡（5名）

社会福祉法人グリーンコープの設置・運営であるが、スタッフはNPO法人抱樸採用である。定員90名、入所期間6ヶ月だが長期入所、一時保護機能もある。若年女性の入所者と退所者あわせて5名にインタビューを行う。

### 4. 研究成果

若年女性がホームレス状態に至ったプロセスと貧困の実態を明らかにするために、「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査」を実施した。35歳以上54歳未満の非正規シングル（未婚）女性を対象に、年収・就労形態・学歴・悩み・必要な支援などのwebアンケートである。その結果、仕事の継続と老後の不安の中、貧困と孤立の隣あわせの生活であることが明らかになった。

さらにアンケート結果から、非正規シングル女性の貧困とホームレス状態は、社会から見えていないため、社会的支援のための社会資源やシステムが構築されていないことも明らかになった。

アンケート結果をもとに、働きづらさ・生きづらさを抱えている女性や生活困窮者への就労支援の場を調査した。フォーラム横浜南の「ガールズ編しごと準備講座」やフォーラム南太田（横浜市）の就労体験の場「めぐカフェ」の見学を行った。また、社会福祉法人グリーンコープの生活困窮者の就労体験の取り組みである「ファイバーリサイクル事業」の見学・参与観察も実施した。いずれも「居場所」と感じられる場があることによって、働く意欲や働くための一歩が踏み出せることがわかった。また、横浜の調査では、働きづらさ・生きづらさを抱えている女性たちが、悩みを共有でき、お互いに共感できるネットワークを求めていることもわかった。

こうした支援システムを考察するために、困窮者支援では先駆的な大阪の母子生活支援施設・大阪婦人ホーム・大阪府立女性自立支援センターにインタビューを行った。結果、支援の入り口である相談窓口と施設の支援内容を共有する必要があること、就労後の就労定着のための支援も必要であることがわかった。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計4件）

野依智子、非正規雇用と生活保障・特集にあたって、大原社会問題研究所雑誌、査読無、No699、2017、1-3

DOI：ISSN0912-9421

野依智子、「家族賃金」観念の形成と歴史的意義 - 1920年代を中心に -、大原社会問題研究所雑誌、査読無、No699、2017、21 - 32  
DOI : ISSN0912-9421

野依智子、高学歴若年女性の入社後の悩み、Business Labor Trend 査読無、No515、2018、11 - 12

野依智子、筑豊炭鉱の女性労働と保育、女たちの21世紀、査読無、No97、2019、35-39

〔学会発表〕(計6件)

野依智子、高齢社会における貧困問題と地域とのつながり、日本社会教育学会第39回関西研究集会、関西大学、2015年7月11日

野依智子、女性研究者支援に関する日韓の成果と課題、日本工業教育協会第63回年次大会、九州大学、2015年9月2日

野依智子、高齢化と女性の貧困、WWAS 国際シンポジウム、福岡国際会議場、2016年6月4日

野依智子、非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査報告、日本社会教育学会第60回ラウンド・テーブル、弘前大学、2016年9月18日

野依智子、共稼ぎと女性労働 - 家庭内労働と賃金労働に着目して -、ジェンダー史学会、奈良女子大学、2017年12月17日

野依智子、非正規シングル女性たちの労働・生活問題、日本社会教育学会第65回研究大会プロジェクト研究、名桜大学、2018年10月6日

〔図書〕(計4件)

野依智子他、九州大学出版会、新版 現代の社会教育と生涯学習、2015、260

野依智子他、明石書店、シングル女性の貧困 - 非正規職女性の仕事・暮らしと社会的支援、2017、256

野依智子他、エイデル研究社、社会教育・生涯学習ハンドブック、2017、995

野依智子他、明石書店、家族・地域のなかの女性と労働 - 共稼ぎ労働文化のもとで -、2018、277

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

野依 智子 (NOYORI TOMOKO)

公立大学法人福岡女子大学・国際文理学部・教授

研究者番号：40467882